



気象衛星「ひまわり」は、どうして夜でも写真がとれるの

赤外線を写すカメラがあるから

気象衛星「ひまわり」は、地球の赤道の上空、36000キロメートルにある人工衛星です。

「ひまわり」は、地球の自転にあわせて回っているので、地上から見ると、いつも同じ位置に止まっているように見えます。それで、「ひまわり」のことを静止衛星ともよんでいます。

「ひまわり」は、赤道の上空から、昼も夜も1日中、地球の観測を続けています。ふつうのカメラでは、夜の観測はできませんが、「ひまわり」には、赤外線(目に見えない光で、物を暖めるはたらきがある)を観測するカメラがあります。雲からは昼も夜も赤外線が出ているので、夜も観測することができるのです。

「ひまわり」は、雲のようすの写真などを送ってくる

「ひまわり」は、上空からとった雲の写真を地球に送ってきます。「ひまわり」は、地球の表面積の4分の1を、観測することができます。

「ひまわり」は、いろいろな仕事をしています。広い地域の雲のようすや、水蒸気の量、海面の温度を調べたり、海にうかぶブイや、山の中の測候所から送られてくるデータ(資料)の、中つぎをしたりしています。

「ひまわり」のはたらきによって、海の上のようすや、大雪を降らせるしくみや、台風が発生するようすなどが、わかるようになりました。(監修・村山 貢司)

